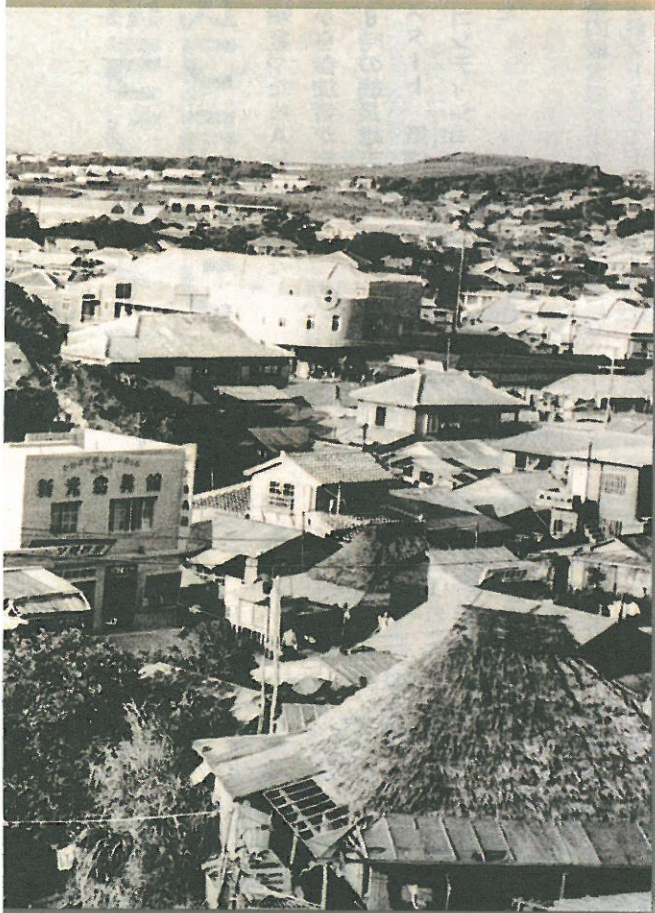


世紀前の那覇のまち

今年、21世紀最初の年です。
今世紀は私たち那覇市民にとって、世界にとってどういう100年になつていくのでしょうか。また、20世紀とは、どういう100年だったのでしょうか。
「20世紀前半は、そして後半は」と思い返してみますと、沖縄は戦争、アメリカ統治化時代、そして、日本復帰とさまざまな激動の歴史のうずの中で、木の葉のように揉まれてきました。
しかし、那覇市民は統治国アメリカや本土の諸文化をも吸収しながら、たくましく、独自の文化を育み、近代的な街を築いてきました。



漫湖の風景 壺川 1953年
楚辺から漫湖を望む。左の島はガーナムイ、右は奥武山。



たり。



米屋 牧志 1953年
公設市場の米屋の前を通る女性。



青物売り 牧志 1953年
公設市場前での計り売りの風景。



魚の計り売り 牧志 1953年
公設市場。買手は軍票B円を手にもつ。



市場の賑わい 牧志
1952年 公設市場